

### 『現代人の論語』

呉 智英 著 文春文庫 530 円 (税込)

## 付き合ってみると予想外に面白い 易しくも優れた「論語」の案内書

人との出会いに、初対面のときには印象に残らなかったにもかかわらず、付き合ってみると予想外に面白い人物だった、ということがある。「現代人の論語」との出会い、まさにそれであった。本書を手にしたのは、他の本を買う際にたまたま目に入って「ついでに」購入したにすぎなかったが、読み終えたいま、今後も長い付き合いになるだろうと確信している。

著者によれば「論語の最も現代的な案内書」とのことだ。それまで論語に興味を抱いたことすらなかった私が、さっそく「論語」(吉川幸次郎著)を購入して読み始めているという実例からも、本書の案内書としての効用は窺えよう。

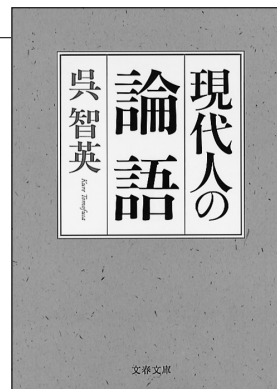
本書は論語約500章のうち50章につき、史実や当時の文化的背景を踏まえつつ原文を忠実に解釈することによって、生身の孔子像を描き出そうとしている。私にはこの試みがどの程度実現できているかを判断する力はないが、少なくとも本書に描かれている孔子は、悩み・惑い・悲しみ・怒り・笑う等みずみずしい感性を持ち、それでいて(いや、そうであるからこそ)人類最初の思想家たるにふさわしい魅力的な人物であった。

例えば「唐棣之華，偏其反而，豈不爾思，室是遠而，子

曰，未之思也，夫何遠之有哉」(子罕篇 9-32) についての訳，「『唐棣の花がひらひらそよぐ，おまえ恋しと思っちゃいるが，家が遠くて会いにはいけぬ』という歌について先生(孔子)がおっしゃった。あの歌にはそうあるけどね，なあと，本気で思っちゃいないのさ。本気で恋しいと思っていたら，家が遠いなんて感じるものかね」。論語にこのようなユーモアに満ちた1章があること自体，意外だった。実際，本章は論語を人生訓的・経学的なものとして扱おうとする立場からは，軽視または道徳的なものとして曲解される結果，本書に出会わなければその素朴な面白みを知ることはなかっただろう。

論語から人生訓を学び，または教育の手段とすることも，それはそれで大事なことだ。けれども，それらの意図のもとに仕組まれた解釈によって，原典への興味や理解が失われてしまっただけの本末転倒である。実際の孔子の人物像や，いかなる状況下で，どのような意図に基づく発言なのかを考えることこそが重要な出発点であろう。かかる視点に立つものとして，本書はまさに「現代人の」ための「論語」の易しくも優れた案内書である。

(会員 田中 慎也)



# Cinema 心に残る映画

## 『アリー my Love』I~V

1997～2002年／アメリカ／デイビッド・E・ケリー 製作総指揮

### 司法試験受験中、心を和ませてくれた 女性弁護士の「人生劇場」

このドラマの紹介文を読むと、働く女性の本音が語られている等、何かと女性の視点で語られていることが多いが、何も女性のためだけの作品ではない。司法試験受験中の私の心を和ませてくれたこの作品は、TVドラマではあるが、私にとってまさに「心に残る映画」であり、今回執筆させてもらった。

この作品は、ボストンの法律事務所を舞台に、女性弁護士アリー・マクビールの活躍を描いた法廷・恋愛・コメディードラマであり、第5シリーズまで続いた「人生劇場」である。仰々しく言えば「幸せとは何か？」がテーマといえるが、さすがアメリカのTVドラマであり、下世話なネタやブラックユーモア満載である。

「いい男は1つの州に2人しかいない」というアリーの名言(?)など、恋愛に関するトピックが本作品の中核であることは否定できないが、それ以外にも、登場人物の内面的な側面がかなり重視されている。心理セラピストが頻繁に登場し、アリーに(実は私に?)語りかける。「あなたは、テーマソングを持つべきよ」。この助言を受けて以降、アリーは問題を克服しようとするたびに、頭の中で自分のテーマソングを奏で

る(というよりも大音量で流す)ようになった。そして、そのたび(あらゆる場所で)踊る。私もテーマソングを作って、試験前に踊ろうかとも思ったが、そこまでの度胸はなかった(それで正解だったのかもしれない)。ともあれ、アリーは踊った。同僚のジョン・ケイジも恋愛恐怖症を克服すべく踊った。彼女らの内心世界に入り込める同僚らは、振り付けも完璧に共に踊れる。自分もそんな一員になりたいと願ったものだ。

こんなにふざけてはいるが、たまにはシリアスな場面もある。寝たきりの恩師から、夢の中で会える30年来の想像の夫、子供らと過ごすために「昏睡状態にすることを認める」との裁判を起こしてほしいとの依頼をアリーは受ける。安楽死に準じる問題であるが、自分がアリーの立場であったら果たして依頼を受けたであろうか?

自己中心的で、トラブルメーカーなアリーに自分を重ねてみる。そんなアリーは同僚らみんなから好かれていて、不可欠の存在になっていったが、自分もそうなりたいと思う。

(会員 小正 寛隆)

『アリー my Love ファースト・シーズン DVD-BOX』  
DVD 発売中  
6枚組マルチ・ボックス  
¥9,800 (税込 ¥10,290)  
20世紀フォックス ホーム  
エンターテインメント

